

外国の有力作家に質問 報が通じない以上、不毛の行 報を送り、三分の一の回答率 為たときめていきます。あ ての日本の文士の、きわめて と、「い」署名運動に参加 日本的な態度が思いだされま す。

論壇時評

中嶋 嶺 雄

国際面に大きくス ポット当てた各誌

在日ソ連外交官の「産業スバ イ」発覚による国外追放事件 は、「西側諸国の一員」として のわが国の証しでもあるとい う。「い」について、いよいよ八〇年

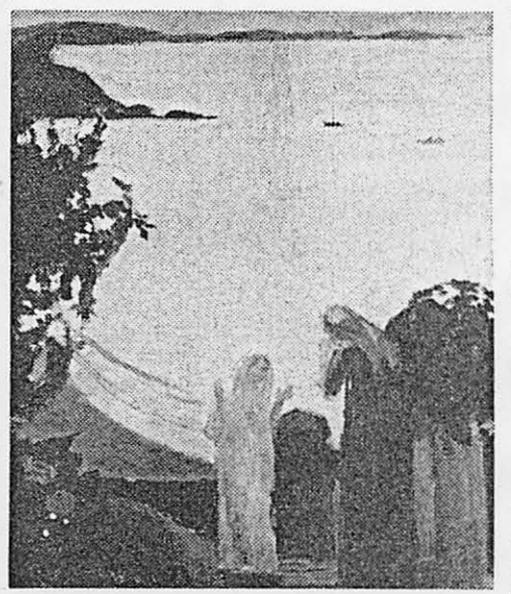
代は、「新冷戦の時代」として 不干涉という国家間の原則との 様相を色濃くしつつある。 混同を戒め、「内政不干渉を原 則とする人は、その補充原則と して政治的「命」も認めなくては ならない」と説いている。 『経済セミナー』が「【論争】 日米摩擦」と題するエッセイ・ウ ォーゲル監修の増刊号を出して いた。

重要な問題点指摘

日米関係論として出色

高坂正堯 今月の言葉 「政治「命」の報道」

それらの論点のなかで、際立 声で叫びながら、別のときは政 治的「命」に対して疑義をさしは とめのためか、隔靴掻痒(かっ かそうよう)の感があった。 これにたいして、石川好「カリ フォルニアは、第二の満洲」に なるか? (諸君)は、いまや アメリカ社会の牽引車として一 州だけでGNP世界第七位にも なるカリフォルニアと日本のま



「モリス・ドニ」訪問 高貴な透明感、 吉井画廊、30日まで

関係を軸にした出色の日米関係 論であった。 もとより石川は、「カリフォ ルニア第二満洲論」の危険をも 説いているのだが、「カリフォ ルニアが発展すればするほど、 そのカリフォルニアに最も近い 経済大国日本への風当たりは強 くなるであろう」という見方 は、いまや対米認識の出発点に 据えられるべきであるかもしれ ない。

内外の専門家に よる有益な情報 一方、ソ連にかなしては、今 月、「中央公論」の臨時増刊 日ジャーナル・六月二十四 日号、「円居総一」サッチャー 勝と英経済政策の変化(エコ 暗) (世界週報・六月十四日 号)というアジア通のベテラン 記者のレポートがあり、日本モ

そのた日米関係を想うと も、きわめて時宜にかなったも のであった。だが、ブレジネフ 流(週刊東洋経済・六月二十 五日号)は「労働党への期待が いまやASEAN諸国の一角か らも、その功罪を改めて問われ ている。

美術展

★出版美術家連盟展 京橋2ノ3東京近代美術クラブ(7月2日まで)

★大キスタイル・デザイン展 銀座4ノ10朝日アートギャラリー(7月1日まで)

文化



佐藤 多持・画

作品がすべて

作品がすべてを物語っている 以上の、芸術家の生涯を追う 「い」に何の意味があるか。こ こで、第一の答は「い」に「い」は正論である。モーツァル 宮廷の司法書記フランツ・ホ 扶助料をもらい、父親のもと